

序 文

RSウイルス感染症の新しい時代

濱田洋通

長澤耕男

千葉大学医学部附属病院小児科

RSウイルス（respiratory syncytial virus：RSV）感染症の予防と治療は、長時間作用型の抗体薬や、母体投与ワクチンの登場で新たな時代に入った。小児科医が長年対峙してきた、疾病負荷の大きな疾患の1つであったRSV感染症臨床の転換点であると思う。そこでこの特集では、今までのRSVの疫学、臨床症状、病態を総括するとともに、新たな予防薬のそれぞれの意義と適切な使いかたをエキスパートの先生方に解説していただく企画とした。

まず、総論として、RSVの進化と構造、感染病理や免疫、RSV感染症疫学、予防の費用対効果、そして感染制御について執筆していただいた。次に、RSV感染症の臨床として、診断と治療の歴史、気道感染症、脳症、突然死を含む新生児・早期乳児の症状、そして高齢者のRSV感染症まで、各論を展開していただいた。最後に、RSV感染症の予防の最前線について執筆いただいた。すなわち、新たなRSV予防薬およびワクチンの国内導入の経緯と使用指針、パリビズマブ、ニルセビマブ、成人用RSウイルスワクチン（アレックスビー）、妊婦・成人向けRSウイルスワクチン（アプリスボ®）のそれぞれについて、領域の牽引者の先生方にご執筆いただくことができた。

本特集がすべての小児医療関係者にとって知識のアップデートになるとともに、将来、RSV感染症臨床の転換点における刊行物として振り返ることができるようになれば喜びである。